

森田さんの学級では、不思議な出来事が描かれている物語を読み、友達とすいせんし合うことにしました。森田さんは、「銀色の幻想」という題名の物語を選んで読み、気になるところにふせんをはっていきます。次は、【物語のこれまでのあらすじ】と【物語の一部】です。これらをよく読んで、あの問い合わせに答えましょう。



森田さん

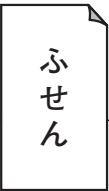
【物語のこれまでのあらすじ】

学校の帰りに、自分と同じ名前の H-I-R-O-K-I 模型店を見つけたぼく。一步その店の入口に近づくと、ドアが音もなく開き、カウンターのすみに座っている老人が、やけになれなれしく「よお。」と手をあげた。店の中は、宇宙船などの模型で占められていた。

【物語の一部】※

部アからオや、-----部①から③は、あとの問い合わせで取り上げられます。

(那須田淳「銀色の幻想」による。)



(那須田淳「銀色の幻想」による。)

(那須田淳
「銀色の幻想」
による。)

ふせん

(那須田淳
「銀色の幻想」による。)

(那須田淳「銀色の幻想」による。)

(那須田淳
「銀色の幻想」による。)

— 森田さんは、ふせんをはつたところをもう一度読んでいます。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1) 森田さんは、―― 部①に表れて いる「ぼく」の気持ちについて考えています。「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを、次の1から5までの 中から二つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 模型の宇宙船が手に入らない悲しさ
- 2 本物の宇宙船を手に入れた喜び
- 3 本物の宇宙船を作ることへのあこがれ
- 4 本物の宇宙船を作ることへの不安
- 5 模型の宇宙船を見た感動

(2)

森田さんは、―― 部②と③から、「老人」は未来の「ぼく」であると考え、他にもそのことが分かるところを探しています。「老人」が未来の「ぼく」と考へられるところとして適切なものを、次の1から5までのなかから二つ選んで、その番号を書きましょう。

1 【物語の一部】の―― 部ア

2 【物語の一部】の―― 部イ

3 【物語の一部】の―― 部ウ

4 【物語の一部】の―― 部エ

5 【物語の一部】の―― 部オ

二 森田さんは、物語から伝わってくることをまとめ、すいせんする文章を書いています。次は、
【森田さんの文章】です。あなたが森田さんなら、Aに入る内容を、どのように書き
ますか。あの条件に合わせて書きましょう。

【森田さんの文章】

これは、過去や未来にいけるうちゅう船を作りたいと思ってる「ぼく」と、そんなうちゅう船を作った「老人」の物語です。

この物語は、「老人」が未来の「ぼく」かも知れないと思わせる表現をさがして読む楽しさを味わうことができます。それだけでなく、この物語を読むと、わたしは前向きな気持ちになります。なぜかといふと、「老人」に出会った「ぼく」を通して、この物語がわたしに伝えてくれることがあるからです。それは、A

〈条件〉

- この物語から伝わってくることを考えて書くこと。
- 十字以上、三十字以内にまとめて書くこと。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

※◆の印から書きましょう。どちらで行を変えないで、続けて書きましょう。

三 同じ学級の山村さんも、「銀色の幻想」を読み、すいせんする文章を書いています。次の【山村さんの文章】の中に入れる内容として最も適切なものを、あの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【山村さんの文章】

この物語は、主人公の「ぼく」が自分と同じ名前のもけい店で「老人」と出会うことから始まる。「老人」は、未来の「ぼく」のすがたかもしれないのだが、読者にそう思わせる表現が文章全体に散りばめられている。そのため、読み進めるうちに、物語の世界にどんどん引きこまれていく。そして、最後の一文「ただ、透明な空の青さのなかで、ススキの穂波が銀色に光り、風にそよいでいるだけだった。」は、

B

読み終わった後も物語の世界にひたることができるおすすめの作品だ。

- 1 色の表現を使い、季節が変わったことを印象づけている。
- 2 「ぼく」が体験した信じられないような出来事を印象づけている。
- 3 空と風を表す表現を使い、「ぼく」が宇宙に行つた不思議さを印象づけている。
- 4 「ぼく」が過去から現在にもどってきた安心感を印象づけている。